

路線名	都道府県	対 象 区 間	１．整備手法の考え方	２．その他自由意見
北関東道	茨 城 県	宇都宮上三川 ～ 友部	○「高速道路株式会社による有料道路方式」による早期整備をお願いしたい。 《理由》 ・北関東自動車道は、常磐道、東北道、関越道を連結することにより、広域的な高速道路ネットワークを構築する極めて重要な路線である。 ・北関東自動車道が直結する常陸那珂港の整備が進み、取扱い貨物量も増大する中、港湾内の関連用地には新たに企業の立地が決定するなど、北関東自動車道の早期供用が強く期待されており、高い採算性が見込まれている。 ・対象区間は、全区間で用地取得がほぼ完了し、工事に関しても、全区間で着手されるなど、整備が順調に進められており、既に供用開始を目前に控える段階に達している。 よって、現行どおり地方負担を求めることなく早期整備が可能な有料道路方式が、本県にとって最も適した整備手法である。	・高速自動車国道は、ネットワークを形成して機能を発揮することから、国土の骨格を形成する11,520kmは、国の責任において、道路特定財源が一般財源化された場合においても、着実に整備を推進されたい。 ・既存の高速道路の有効活用を図るため、スマートＩＣの本格導入を推進されたい。
	栃 木 県	伊勢崎 ～ 岩舟ＪＣＴ	整備手法 「高速道路株式会社による有料道路方式」 理由 (１)北関東自動車道は、常磐道、関越道をはじめとする全国的高速道路網と一体となってネットワークを形成し、地域の発展に欠くことのできない重要な道路であること、さらに、長期的にも多くの交通需要及び高い採算性が見込まれることから、有料道路方式が最も適した整備手法である。	１ 高速自動車国道は、国の根幹的なインフラであり、豊かな地域社会の形成にはネットワークの連続性の確保が極めて重要であることから、北関東自動車道についても早期に全線開通できるよう整備を推進されたい。 ２ 既存の高速道路の機能及び利便性を高めるため、上河内ＳＡ及び那須高原ＳＡのスマートＩＣ社会実験や、栃木県北部東北自動車道社会実験の成果を十分に反映され、高速道路のより一層の有効活用を図られたい。
		宇都宮上三川 ～ 友部(県境)	(２)北関東自動車道沿線においては、全線開通に合わせ、インターへのアクセス道路の整備や、沿線における各種開発プロジェクトが推進され、各企業も大きな期待を寄せていることから、早期整備が可能な有料道路方式が最も適した整備手法である。	
	群 馬 県	伊勢崎～岩舟ＪＣＴ	高速自動車国道の評価結果における北関東自動車道の整備効果は、全国上位に位置している。 本県としては、今までどおり国の責任による北関東自動車道の建設、及び早期全線開通を基本方針としており、引き続き「高速道路株式会社による有料道路方式」により早期に整備されたい。	北関東自動車道は、北関東３県の主要都市と、国際交流港湾常陸那珂港を連結することにより、東京圏に一極集中している物流体系を再編するとともに、北関東各都市の連携・交流を強化し、東京圏から自立した地方都市圏を形成するための大動脈として、極めて重要な基幹道路である。 また、関越道、常磐道、東北縦貫自動車道と一体となり、更に上信越道、中部横断自動車道と大環状連携軸を構築することにより、西日本との連携と交流を促進し、多軸型、多極分散型国土形成を達成する上でも、大きく貢献する国家プロジェクトである。 現在、部分開通という非効率な状態であるが、全線開通による経済効果は北関東３県のみならず、首都圏にも大きな効果をもたらすものであり、一刻も早い開通が必要である。